

いじめは、家庭教育の在り方に大きな関わり

FAN

いじめを知ったら どうしますか？

どの子どもにも、どの学校にも起こりうる

いじめの問題は、保護者が子どもの時から見聞きし、悲しい出来事がある度に、報道等で取り扱われています。いじめについて、真剣に悩んでいる子は、今もどこかにいるはずです。その子が、我が子だったら、皆さんどうしますか？
我が子が被害者、加害者のどちらかであって、皆さんに関わっていますか？
きっと思い悩み、目の前が真っ暗になってしまいかも知れませんが、少しただけ「いじめ」について考えてみませんか。

加害者になっていたら

いじめを行う人には、「間違った考え」がある、ということを知ることがあります。シンキング・エラーというそうです。
我が子がいじめ行為をしているということは、保護者には受け入れがたいことですが、子どもの「間違った考え」を修正することで、対応できると考えられます。
この「間違った考え」の修正は、学校だけではなかなか難しいのが現実です。家庭と学校が力を合わせて、個性や差異を尊重する態度やその基礎となる価値観を育てていくような指導していきけると思いますね。
例えば、以下のように、子どもが言い訳したら、保護者として、どのような声かけをしますか？

- ① そのいじめは、他の人が始めたから仕方がなかった。(いじめをやらざるを得なかった。)
- ② こんなことで、相手が深く傷つくとは思わなかった。
- ③ 相手が先に悪口を言い・仲間はずれをしてきた。相手もみんなに悪口を言われ、仲間はずれにされて当然だ。

被害者になっていたら

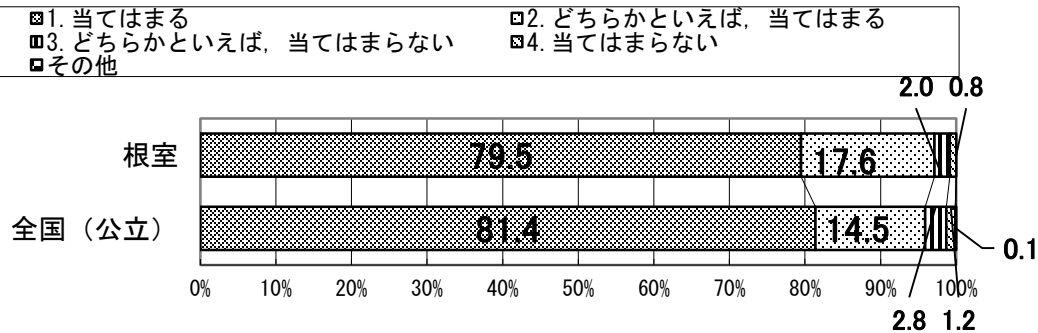
いじめの被害にあった子どもを叱る保護者がまれにいます。「隙をみせるから悪い」「悔しかったら他のこと(たとえば勉強)で見返してやれ」というものです。
しかし、それではいじめ被害者が沈黙し、いじめを深刻にしてしまっておそれがあります。「いじめの被害者は悪くない」とのメッセージをおうちの人ももちょうこで、救われる子どもも多いはず。
そして「うちの子にも落ち度があるのではないか」などと考えず、ぜひ学校に相談してみてください。保護者が冷静になることで、学校も迅速で正確な対応が可能となります。
家庭でも、学校同様に子どもが発する危険信号を敏感に感知していただき、素早く対応していただけると、ありがたいです。



ねむろ子ども情報

令和3年度(2021年度)全国学力・学習状況調査における根室管内と全国(公立)との比較

【中学校】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



根室管内の中学校三年生では、約八十%の生徒が「当てはまる」と回答しており、平均とはほぼ同じとなっています。
いじめ問題を解決するためには、家庭が重要な役割を担っています。家庭内の深い愛情や精神的な支え、信頼に基づいた厳しさ、親子の会話等のふれあいを大切にしたいですね。